

AIで配車を自動化

三菱ふそうトラック・バス

物流の2024年問題を控えたラストワンマイル配達の生産性向上が課題となる中、三菱ふそうトラック・バス(本社・川崎市)・カール・テッペン社長兼CEOが日本で展開する米ワイズ・システムズの配送計画システム「ワイズ・システムズ」に関心を寄せる企業が増えている。米国で走行距離15%削減、車両稼働率20%向上、配達遅延の最大80%解消につなげた実績を持つ同システムの魅力を探った。

配送計画システム「ワイズ・システムズ」

wise systems

ラストワンマイル配送を最シなどの端末でリアルタイム適化するワイズ・システムズに配送の進捗を正確に把握し、AIと機械学習により配能。配送開始から完了まで全送計画を自動作成するソフトウェアで、クラウドシステムを通じてパソコン、スマートフォンから利用できる。配送ドライバー、荷物、ドライバー・車両、交通状況といった情報を収集し、独自開発アルゴリズム(計算式)で最適な配送計画を自動作成する。米国のユーザーでは、ワイズ・システムズの導入によって走行距離を15%削減、車両稼働率を20%向上、配達遅延を最大80%解消した例がある。配達効率の向上は、ドライバーの労働規制強化に伴う24年問題への対策としても有効なことから、三菱ふそうは運送企業やEC企業の悩みを解決するメニューの一つとして、同社販売網も活用しながら認知度向上に向け活動している。

24年問題、人手不足対策にも

注目その1

EC物流の解決策に

ECの拡大による新たな流通網の形成がラストワンマイルの配送量を増加させている一方、24年問題によってドライバーの配送時間は制限されることになる。ワイズ・システムズでは、効果的な経路を決定するだけでなく、ドライバーの就業時間を設定すれば、設定時間内で配達できる経路を作成。24年問題への直接的な解決策となり得る。



見やすい画面、分かりやすい操作方法で使用しやすい

注目その2

車両ブランド問わず

ワイズ・システムズには、も一つ大きな特徴がある。トラック車両に搭載した装置ではなく、パソコンやスマホを活用したクラウドサービスのため「FUSO」ブランドに限らず、他



配達効率化は、24年問題で就業時間が制限されるドライバーにもメリットを生む(写真はスマホアプリを操作するイメージ)

ケーススタディー

数百件の配送計画、数十分で

最適な配送計画を自動作成するワイズ・システムズの独自アルゴリズムは、1度に2000件の配達先まで経路決定できる計算能力を持つ。ユーザーにより最適な経路を提案することが可能。見やすい画面、分かりやすい操作方法でなじみやすく、システム操作が苦手なユーザーでも抵抗なく使用できるとい

を行うユーザーでは、以前は手作業による経路策定で、住所を1件ずつ確認しながら配達順を決めていたため苦労していたが、ワイズ・システムズを導入したことで1日に数十分程度で配送計画を策定できるようになった。結果、2〜3時間の業務時間短縮が図れた。

三菱ふそうの目標は、ワイズ・システムズを通して「ユーザーに寄り添い、悩みを一緒に解決すること(同社)。そのためにはワイズ・システムズの認知度向上が重要となる。AIを活用した配送計画システムを同社が取り扱っており、同システムがユーザーにどのように役立っているかを広く知ってもらえるよう、活動していく方針だ。

のブランドの車両でも利用することができる。トラックユーザーには複数のブランドの車両を持つケースが多い中、三菱ふそうは車両ブランドを問わず利用できるサービスを提供することを通じて、ユーザーの課題に真摯(しんしん)に向き合い、ひいては業界全体の問題解決に貢献していきたいとする。

特に「毎日配先が変わり、運行車両台数が多ユーザーに対しては、配送計画作成の効率化、配送経路自体の効率化によるコスト削減、ドライバーのシフトを踏まえた配送計画の作成と動態管理・自動レポート作成による労務管理という点で役立つ(同社)。